

## 1. はじめに

最近、おしゃべりをする機会がどんどん減っております。おしゃべりが健康にもいいというのは分かりきっているとはいえ、いざおしゃべりということになると、案外考えてしまいがちです。

ではどうします？ おしゃべりはやはり「おしゃべりの場」あつてのものでは。昔でいえば井戸端ですね。そこで皆さん、どんな場所でも井戸端にして、おしゃべりを楽しむ習慣をつくってみませんか。そして、地元の町が笑いを含めておしゃべりで包まれるようにしたいものです。

なお、ここではおしゃべりは会話ではなく、コミュニケーションともせず、口から自然と出る思い(言葉の呼吸)というものとします。

△ ただし、以下の二点にご留意ください。

- ・コミュニケーションや人生の勉強ではありません。
- ・おしゃべりを楽しむ雰囲気と場づくりに着目です。

## 2. 昔はどう、今はどう

### (1) 昔は

家庭、ご近所、町内、校区などのいたるところで、清掃、新年お参り、お祭り、寄り合いなどの時や、また買い物(お店)、病院で待合、床屋・美容室のセツ中の時にもいただいているときにも、とにかくおしゃべり談義が華やかでした。

### (2) 今は少し

今はどうでしょう。まずあまりしゃべらなくなりました。しゃべるときは、職場でとか趣味の場でとか、とにかく少ないです。食品スーパーでは無言で買い物ができるし、お祭りは気の合ったもの同士で行っておしゃべりする程度です。その一方では、そんな雰囲気が嫌で交流を求める若者が実に多く、彼らのニーズに応じて種々のサークルや交流の場があります。朝活や〇〇カフェなどはそのたぐいであり、そこでは、参加者が自由に集まり、自由に話すことができます。



病院待合室



村の寄り合い

### (3) 今の勉強の場：

〇〇市民大学講座や〇〇町民学園などと称した勉強会も結構賑わっています。しかし、そこでは勉強が中心であり、受講生同士や講師との交流はほとんどないのが実状です。

## 3. 今の懸念

現代ではおしゃべりの必要がすこぶる低下しているようにみえます。ここで、その低下模様を少し極論風に記してみます。

### (1) おしゃべりの必要性が感じられなくなる

例えば、買い物一つとってもあまりしゃべらなくてもいい世の中です。ネット通販での買い物になれば会話は全く不要となってしまいます。

### (2) 今はあまりしゃべらなくてよい世の中

お客様ニーズに応えるとして、人間から言葉を奪い取るのではと思えるくらいに、おしゃべりが不要となっているかのようです。もちろん、人間関係が希薄になっていることによりますが、これからは喋りとの会話が主になろうかとも思えるくらいです。

### (3) 出かけてなくなるは、交流も少し

人との交わりが細くなってきているようにみえます。気のあったものどうしやそれすらもない場合も多々見られるようになってきています。そんな状況ではおしゃべりはまるで必要なしといえましょう。

## 4. おしゃべりには

おしゃべりの要件とは、人、対象や思い、場所の三要素と考えます。以下に述べます。

### (1) 人については、三つのカテゴリーに分けてみます。

- ・自と他、・対人、・集団、

### (2) 対象：おしゃべりの対象(内容)は以下のよう

- A. 身の回りの事では、・家、・子ども、・自分たち
- B. 地域まで広げても身の回りと同じです。

(3) おしゃべりの要件：おしゃべりには、まとまった時間と安心な場所が必要です。それで初めて、ゆとりのある思いのキャッチボールが可能となります。

(4) 場：場には安定が必要です。路上での立ち話も路上が安定であればなんてことは無いのです。本来は何処も安定安心な場所ですので、にわかな安定場所も大事にしたいものです。

ではなぜ、そんな安定が必要なのでしょう。それは、即生活の場だからです。生活場なら、人は会話でつながることが出来ますし、安定安心も生まれるのです、と考えます。こうしてつくられる場をおしゃべり居場所と称しましょう。

(5) 効用：おしゃべりは笑いとセツと考えます。笑いは人生の薬といわれることもある日常欠かせないものです。思うにおしゃべりは五感・五体がフル活動のものです。思うことを意識しようがしまいが口を通しての人間本能行動と捉えれば、おしゃべりは本能を健全化させると共に、人間らしさ(理性発揮)を醸し出すという効用があります。

## 5. おしゃべり居場所、まとまった場

## (1)居場所づくり

今はおしゃべりの場がないというならおしゃべり居場所として場作りを始めましょう。場としては、家庭や地域、何でもござれ、です。ただし、条件として、ゆとりがある場所(居ること)と自由さがが必要です。

(2)おしゃべり居場所の様子：まずは集まって。仲間です。つながります、いわば交流です。そこに行けばいつでも(誰かがいて)おしゃべりが可というものです。

## 6. おしゃべりのポイント

- ・話は身近なこととして衣食住が主です。そこから始まって、子ども、家族・家庭、幸せ、健康、生きがい、学校、地域、ふるさとなどが話題となっています。
- ・堅い話題についてはふさわしい場所にて。

## 7. おしゃべり居場所、探してみると

家庭意外ではどんなところに居場所か、列挙します。一番はショッピング系や飲食系でしょう。

(1) ショッピング系：どこにも、休憩ところがあります。(買い物客には用が済んだらさっさと帰宅させるために休憩所がないショッピング系もあります)



ショッピングモールでの休息スペースと大スペース



酒屋で懇親



お祭り

## (2)飲食系

飲食系では喫茶店、居酒屋、専門食屋等があります。

(3)公的場所 これには図書館、コミュニティセンター、勉強会、公園、等をあげたいです。

(4)行事 行事としてはお祭りがあります。

## 8. おしゃべり居場所、積極的な場なら

家庭や地域の場、職場、趣味の場などの加えて、最近、若者やシルバーを対象にした交流場が全国展開しています。わが地元でも自然発生的に作られました。ここに紹介します。(詳しくは別稿を用意したい)

もともとは有志によりフランクな交流の場づくりとして、地元では朝活と街カフェがあります。趣旨は；

(1)朝活：自宅と職場の往復は味気ないという方、出勤前の朝の一時間、仲間と一緒に交流を。

(2)街カフェ：皆さん気ままにおしゃべりを。暮らし、趣味や学び等一緒に考えたいこと持ち寄って。

### 8.1 朝活 朝食をとりながら

(1)概要 実施日時：月二回の朝1時間、喫茶店で実施：講師を募りテーマを決め当日話題提供。

(講師は原則朝活参加者、著名東京人等は呼ばず)

話題提供後、**アフタートーク**、そしておしゃべり参加者 人数：毎回20人程、2年間で述べ1000人。テーマ：自分磨き、人生楽しみ、コミュニケーション技術、接遇、立山、自然、等福祉問題、等

## (2) 様相

- ・各自の職業柄で話題提供。趣味が高じて話題提供。
- ・若さゆえの悶々とした語もあり。
- ・自分の心情を語り皆さんが共感。**共感も楽しみ**。



会場風景、講師 アフタートーク

## 8.2 街カフェ 昼コーヒーを飲みながらおしゃべり

(1)概要 実施日時：月一回昼、コミュニティセンターにて。

実施要領：参加者全員が話題を持ち寄って提供。参加者10人程、シルバーのみ。

テーマ：地元歴史、山、夫婦別姓、米騒動、等

(3)街カフェでシルバーは 何の気兼ねも遠慮もなし。



## 9. おしゃべり居場所、いつでも何処でもなら

おしゃべり居場所を作るには、何といても集まれるところに定期的集まるのが一番です。お茶飲み会の場であっても、ショッピングセンター休憩所であっても、短くても長くても、おしゃべりが始まります。また集会所のようにまとまった場所であれば、話題の持ち寄りによりじっくりとおしゃべりできます。その意味では、人の輪集団として地元の若者会、青年団、老人会への期待が大きいかもいえます。もちろん、立ち話もどしどしとしましょう。

## 10. まとめ

人は場を作り、場は人を作ります(場はおしゃべりを応援します)。よい場を作ることは、人をおもんばかり人格尊重そのものですから、話し方に気を配らなくてもごく自然(自然体)がおしゃべりとなって、皆さんとともに楽しめます。人間はそんな味を自身から滲み出せます。もちろん、積極的なおしゃべり場もいいもんです。